# みんなちがってみんないい①

のらねこ学かん館長　塩見 志満子

## ある小学生の夢

私は25年間にわたり高校の教員を勤めました。4人の子どものうち、長男を小学2年で病気で、次男を小学3年で事故で亡くしました。私は人生で地獄を見たがゆえに、のらねこ学かんを作り、たくさんの方々に支えられて今の私があります。

広島の小学校での講演が終わって帰ろうとした時、運動場に追っかけてきた小学1年の男の子が、「おばちゃんに聞いてほしいことがある」と言いました。「おばちゃんは四国だし、もう年だから会えないかもしれない。だからあんたの話を聞いて帰ろう」「おばちゃんは夢を見て生きろと言った。僕のたった一つの夢を聞いてほしい」「僕ね、おばちゃんのように大人になって結婚して、嫁さんに僕の子どもができたら、僕はその子どもを殺してから死にたい。それが僕のたった一つの夢だ」って言うんです。自分の子供を殺して死にたいという夢を持って生きている子供がいるんだと、私は驚きました。そして、思わずその子を運動場に座って抱きしめたんです。そして「来年も絶対来るから、おばちゃん生きていて、何年もあんたに会いに来るから。だからこの小学校に来ていてね」

そう言ったら、その子はボロボロ泣きながら言いました。「おばちゃん、僕は生まれて初めて大人のおばちゃんに抱かれた」って。驚きました。すぐに校長室へ行ってその話をしたら、「今、この学校に少なくとも40人はそういう子どもはいるでしょう」と。何かを殺したい、誰かをいじめたい、陥(おとしい)れたいとか、そういう夢を持って生きている子どもがいますって。それは皆小さい時に虐待を受けて、一度も両親に抱きしめられたことがない、親が殴る蹴るのは当たり前である子どもが40人もいると思った時、私は思いました。

こういう教育をしたのは誰なんだろう？それは私です。高校の教員だった時、私は言ったことがあります。「塾へ行って、成績を上げていい大学へ行けばお前は必ず幸せになる」「どうして兄ちゃんは頭がいいのにあなたはこんなに馬鹿なの？」そう言いながら目の前の子どもを叱咤激励した教員です。お母さんにも「夏休みです。どうぞ英語の成績を上げるために塾へ行かせて下さい」と言ったのは私たちです。そして日本は、こんなひどい国になりました。

先ほど円ブリオのDVDを見せてもらった時、もし小学校で、総合学習の時間に、お腹に授かった赤ちゃんが人間の命であることを教えてもらっていたら、中絶をするお母さんにはならなかった。国語の時間を削ってもこういう教育を子どもたちにしていたら、自分の子どもを殺してから死ぬなどという子どもは、この日本にいなくなる。どうぞあなたも、一生懸命活動している人たちと一緒に命とは何ぞや、命はいつ始まるのかを学んで下さい。

（つづく・平成24年12月号より）

## 生命尊重ニュース REVIVAL

広島の小学校での講演が終わって帰ろうとした時、運動場に追っかけてきた小学1年の男の子が、「おばちゃんに聞いてほしいことが